

グローバル・ガバナンス学会 第 11 回研究大会

開催ご案内

日時：2018年5月12日(土)・13日(日)

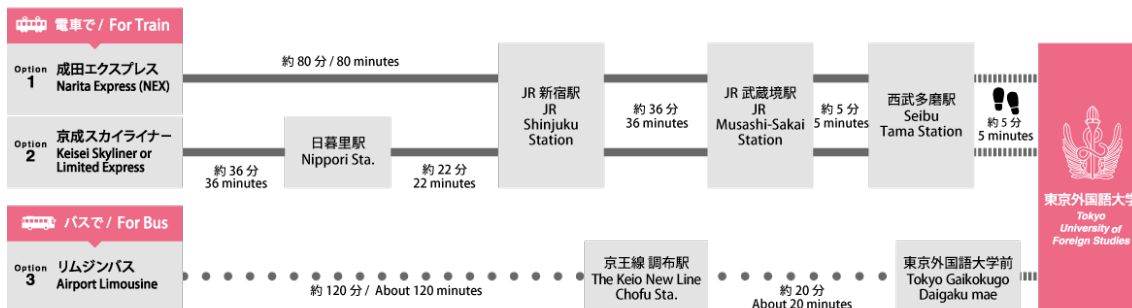
会場：東京外国語大学府中キャンパス

主催：グローバル・ガバナンス学会

後援：東京外国語大学国際関係研究所

交通アクセス

西武多摩川線「武蔵境」駅から、「多磨」駅下車、徒歩約5分



学内アクセス

地図 9 番の研究講義棟が会場です。

地図 8 番の学生会館に生協があります。



*参加費について

- ・ すべてのセッションを学会員のみならず、非会員の方にも公開いたします。
- ・ なお参加費に関しては、学会員は無料です。非会員の学部学生は、学生証の提示をもって参加費無料といたします。
- ・ 一般の非会員の方は、500円をお支払いいただきますようお願いいたします。ただし、「市民公開セッション」のみ参加の場合は無料です。

*会費未納の方へのお知らせ

- ・ 研究大会・受付でも年会費の納入を受け付けます。
- ・ 次の口座に年会費をお振込みくださっても結構です。

ゆうちょ銀行

00930-9-128155

グローバル・ガバナンス学会

グローバル・ガバナンス学会 第11回研究大会のご案内

第11回グローバル・ガバナンス学会研究大会のプログラムのご案内です。

今回の共通論題は「ユーラシアの変動とグローバル・ガバナンス構築」です。いわゆるパワー・シフトやパワー・トランジションという言葉が使われ始めて10年近くになります。その最たる要因は中国の台頭ですが、それは今世紀に入ってから大きな脅威としてとらえられていました。ヨーロッパではリーマンショック後、フランスの著名なアジア研究者フランソワ・ゴドマンが指摘したように、「21世紀の『敗者』はヨーロッパと日本だ」と言われるほどベシミズムが強くなりました。

2012年以後の習近平主席の「中国の夢」、そして「一帯一路」構想の提唱は日本ではAIIB（アジアインフラ投資銀行）の話にばかり偏って議論されますが、ユーラシア全体、そして北極海航路を含む壮大な勢力圏構想として世界では捉えられています。その意味で地政学的なアプローチが隆盛ですが、現在のユーラシア情勢を従来のパワーポリティックス的な権力闘争の場として注視するだけでは十分ではないと思われます。そこには広義のグローバル・ガバナンスにつながる国際制度・規範の構築の発想が不可欠です。私見ですが、そこに日本外交の介在する余地がもっと出てくると思います。今回はそうした観点から共通論題を考えてみました。

共通論題のゲストとして日米関係をはじめ日本研究のアメリカにおける第一人者マイク・モチヅキ教授（ジョージ・ワシントン大学）、OSCEに関するパネルのゲストとしてヤン・プレジンガー大使（OSCE）に来日いただきました。

また今回は自由公募された会員の数も増加し、グローバル・ガバナンス学会にふさわしい広範なテーマのセッションが開催されます。会員の皆様の積極的なご参加を心から期待する次第です。どうぞよろしくお願い致します。

グローバル・ガバナンス学会会長
渡 邊 啓 貴

5月12日(土)

午前の部会セッション(10:00-12:00)

部会1. リージョナリズムをめぐる課題(自由論題部会)

会場: 104 教室

- ・ 武田健(東海大学)「EU 条約改正のために回避すべき国民投票—リスボン条約交渉の考察—」
- ・ 河越真帆(神田外語大学)「パリ協定後の国際航空分野における排出量取引制度」
- ・ Shu Min (Waseda University) "Anticipating China's Rise and the New Trend of Regionalism in East Asia"
- ・ 司会者兼討論者: 坂井一成(神戸大学)

部会2. 国際社会における規範の再検討

会場: 105 教室

- ・ 軽部恵子(桃山学院大学)「国家が人権規範を受容する過程—国連女性差別撤廃条約と日本の国内適用に関する事例研究—」
- ・ 竹内雅俊(東洋学園大学)「国内裁判所を通じた規範のグローバル化の様態」
- ・ 本多美樹(法政大学)「国際秩序の安定化のための平和構築活動を考える—価値規範の共有をめぐる多様なアクターの関与と調整に注目して—」
- ・ 討論者: 廣野美和(立命館大学)
- ・ 司会者: 宮下大夢(早稲田大学)

* 学内生協食堂が 11 時半から 13 時半まで本学会のために特別に開店していますので、是非ご利用ください。

午後の部会セッション (13:00-15:00)

部会 3. Process and Prospects of OSCE for Regional Governance

会場：101 教室

- ・ Ambassador Jan Plešinger (OSCE), “Historical Role of OSCE and CSCE in Regional Governance: Challenges in the Past, Present and Future”
- ・ Noboru Miyawaki (Ritsumeikan University), “Why does Mongolia Need the OSCE ?”
- ・ Masataka Tamai (Tohoku University of Community Service and Science), “Un' Protected Minority and OSCE: The Myth of HCNM and its Limitation”
- ・ Discussant: Gen Kikkawa (Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University)
- ・ Moderator: Motoko Shuto (University of Tsukuba)

共通論題 1. (15:10-18:00) ユーラシアの変動とグローバル・ガバナンス構築 (市民公開セッション)

会場：101 教室

共通論題基調講演 (15:10-16:10)

- ・ Mike Mochizuki (George Washington University) "The Evolving US-Japan-China Strategic Triangle: Implications for Regional Security Order"
- ・ 司会者兼討論者：菅英輝 (京都外国語大学)

共通論題パネル (16:10-18:00)

- ・ 山本武彦 (早稲田大学) 「ユーラシア地戦略の相克とグローバル・ガバナンス—connectography との関連で—」
- ・ 浅野亮 (同志社大学) 「『一帯一路』が目指すユーラシアの秩序：『中華秩序』への路程？」
- ・ 討論者：Mike Mochizuki (George Washington University)
- ・ 司会者兼討論者：渡邊啓貴

5月13日(日)

午前の部会セッション(9:30-11:30)

部会4. ヨーロッパ統合の東方フロンティア(自由論題部会)

会場: 104 教室

- ・ 石井雅浩(一橋大学)「EU エネルギー同盟とグローバル・エネルギー・ガバナンス」
- ・ 山上亜紗美(立命館大学)「EU の近隣諸国政策における人権—対ウクライナ政策を事例に—」
- ・ Maria Shagina (Ritsumeikan University) "Japan's Sanctions against Russia and its Implications for US & EU Sanctions Unity "
- ・ 司会者兼討論者: 東野篤子(筑波大学)

部会5. 「保護する責任」の概念のフロンティアの拡大

会場: 105 教室

- ・ 政所大輔(神戸大学)「日本の国連外交と規範の内面化—保護する責任を事例に—」
- ・ 秋山肇(日本学術振興会・国際基督教大学)「非国家主体による無国籍の予防規範の推進—歴史的視点から—」
- ・ 中山裕美(東京外国語大学)「難民ガバナンスにおける『保護する責任』の実践—国家・市民社会の関係から—」
- ・ 討論者: 小松志朗(山梨大学)
- ・ 司会者兼討論者: 畠山京子(関西外国語大学)

総会(11:30-12:15)

会場: 101 教室

ランチ懇親会(12:15-13:50)

会場: 生協食堂ホール

会費: 2500 円

* 研究大会参加の事前登録の際に受け付けておりますが、当日、研究大会の受付でもお申し込みいただけます。皆さまの積極的な参加をお待ち申し上げます。

共通論題2. (14:00-16:00) ユーラシアの制度構築をめぐる考察(市民公開セッション)

会場: 101 教室

- ・ 蓮見雄(立教大学)「欧州近隣政策(ENP)の波及と課題」
- ・ 平川幸子(早稲田大学)「中国イニシアチブの発展過程: SCO と CICA の事例」
- ・ 湯浅剛(広島市立大学)「ロシア主導地域統合プロセスの制度的展開」
- ・ 討論者: 松井康浩(九州大学)、福田耕治(早稲田大学)
- ・ 司会者: 大矢根聡(同志社大学)